

4. ③ 経営学教育と経営情報学教育の相互補完性：能勢豊一

(1) 経営情報学誕生の歴史的背景

経営は、その情報化とともに固有技術による経営の効率化が進展し、その変化に適応するあまり経営の健全な姿が失われてきた。経営が再現性のある事象が中心であった間はこれでも良かったが、再現性のない事象の割合を増している現在の経営においてその「光の部分」と、それによって置き去りにされてきた感のある「影の部分」の融合は喫緊の問題となっている。今日の経営に求められているイノベーションは、個人や組織のスキルを活かし切り、その知を活用・融合した枠組み作りと言えよう。

(2) 経営情報学の定義と役割

科学は元来、自然科学と人文・社会科学の2つの分野から成り立っており、その両者が車の両輪のように機能することが期待されている。このような科学の力は、理学をベースにした要素技術力、工学をベースにしたものづくり力、経営学をベースにした進化力の3軸により構成される空間において融合され、企業経営の場に活かされるべきである。そのよう場を活かし、企業経営に貢献するのが経営情報学であり、情報技術によって新しいシステムを創造する学問と説明できる。また、経営情報学の役割は、情報技術によって従来の工学技術では果たせなかった経営の新陳代謝のスピード化、サービスの高度化、規模のグローバル化に飛躍的な貢献を果たしたことにある。

(3) 技術、工学、経営における高度な知を融合する経営情報

経営の要諦は、現場のミッション、管理のミッション、戦略のビジョンの融合であり、前述の要素技術力、ものづくり力、進化力に対応する。今日のシステムは完成した途端に陳腐化がはじまり、物理的、経済的、社会的な面で攻撃対象となるリスクが急速に増大する。企業経営における安全と安心は、これまで現場の要素技術に支えられるコントロールの局面によってその多くが支えられてきたが、もはやコストパフォーマンス上からも維持できなくなった。企業経営における今日の安心と安全は、創り出された技術、創り出す技術、それらを使いつくす技術を支える情報技術を駆使することによって支えられる。経営情報システムは、情報技術により実現する現場の新陳代謝、管理の高密度化、経営の進化であり、知の融合の形態である。

(4) 経営情報学の教育

経営情報学は、従来、経験・勘をベースに行われてきた経営における実務教育を、理論とシステムとソフトウェアをベースにした教育に変える可能性を有している。今日の経営に求められる教育は、独創力とチャレンジ精神に溢れる経営者の育成である。経営情報学は、経営ビジョンと現場ミッションの強い相関関係を創成し、新規事業の起業化、新しいビジネスモデルの創造というミッションづくりを支援する可能性を持っている。さらにその一方で、経営のリスクとチャンスシミュレーションする仕組みと教育が経営情報学の世界で可能となり、今後初等中等教育のできるだけ早い段階でこれまでの知識習得中心の教育を脱し、失敗と成功体験中心のシミュレーション教育に代える試みが経営情報教育において可能になる。それによって、形式知だけの情報感覚だけでなく、経営感覚を有する経営教育に寄与する経営情報学であることが望まれる。